


# まほろば 秦野通信

令和4年4月6日

タイトル	煙草産業の歴史を後世に 「秦野煙草の碑」が寄贈されました
When (いつ)	4月6日(水曜日)
Where (どこで)	秦野市役所 (本庁舎正面入口東側)
What (なにを)	秦野煙草の碑 《概要》くせのないまろやかな風味で知られた「秦野煙草」をイメージした楕円形で、素材は白御影石。高さ150cm、横幅80cm、奥行き65cm。
How (どのように)	<b>【碑文内容】</b> 秦野は、かつて葉煙草耕作で栄えた街である。宝永4(1707)年の富士山噴火による降灰被害で地力のなくなった畑に煙草を植えたところ、くせのない香味佳良のものが育ち、「秦野煙草」として全国に知られるようになった。 明治時代に煙草の専売制が導入されると収納所、試験場、製造工場が設置され、地域の近代化を押し進めた。これらの職場で働く人々によって人口も急増し、葉煙草の収納に訪れた人々で商店街はにぎわった。このように、葉煙草耕作はまさに秦野発展の礎となった産業である。 しかし都市化が進むなか、農業人口の減少により昭和59(1984)年には葉煙草を栽培していた農家が耕作の継続を断念し、葉煙草耕作の街としての歴史に終止符を打った。
Why (なぜ)	<b>【寄贈者について】</b> 寄贈者の意向により非公表とします。 
問い合わせ	生涯学習課 文化財・市史担当：浦野 電話：0463-87-9581